

9/5
7月12

震災で自衛隊に憧れた子も

主婦

(宮城県 68)

ここ宮城県でも、4年前の東日本大震災で沿岸部は壊滅的な被害を受け、多くの命が奪われた。自衛隊員の献身的な救助活動に私たちは心から感謝した。働きを目的の当たりにして「将来は自衛隊に入り、困っている人を助けたい」と目を輝かせていた子どもたちが多くいた。

国会での安保関連法案の審議を見ていると、法案の本質は米国を中心とした他国の戦争に自衛隊が参加することにほかならないと理解するに至った。イラク戦争では非戦闘地域での人道復興支援といわれたが、

実情は緊迫した現場だったことが次第に明らかになっている。「人を助けたい」と自衛隊に憧れた子どもたちが入隊後、後方支援の名の下に他国との戦争に巻き込まれる可能性があると思うと心が痛んでならない。安倍政権は弾薬を消耗品だと言っ

私は、自衛隊員の命も消耗品のように扱われるのではないかと不安になる。

人助けと戦争は正反対だ。米議会で安保法制を夏までに成就すると述べ、拍手を浴びた安倍晋三首相に言いたい。あなたへの賛辞は、自衛隊員の生命を危険にさらすことと引き換えであるのだ。

戦争反対 白骨街道の父思う

無職

(鳥根県 78)

国会議事堂前や全国各地で安保関連法案反対の動きがあった8月30日、私の住む出雲市や、松江市、そして山間部の雲南市などでも反対集会がありました。私は参加できませんでしたがニュースで知り、こんな平和で静かな地方都市でもと驚き、市民の不安と怒りが象徴された光景だと思いました。私は学生時代に京都で60年安保闘争のデモに数回参加しましたが、今回はより幅広い世代が参加していると感じています。

先の大戦でヒルマ(現ミヤマー)のインパール作戦で父を亡くした私は、戦争には絶対に

反対です。18年前、日本遺族会主催の戦没者慰霊訪問団の一員として現地を訪れました。インド国境の森林地帯で全員で「お父さん」と大声で叫び合いました。帰路、現地ガイドさんが「今、往復したガタガタの砂利道の下に、あなたたちのお父さんが埋まっているのです。当地ではこの道を『白骨街道』と呼んでいるのです」と聞かされ金買号泣しました。父は1944年8月1日に戦死とされていますが、遺骨はありません。

先の大戦では310万人の国民が犠牲になっています。このまま安保関連法案が成立し、子や孫たちがかもし徴兵されたらと思うと生きた心地もしません。